

英語科教育法 I (第7講)

聞くことの指導



目次(聞くことの指導)

- ▶ 聞くということ
- ▶ 人間の言語発達の一歩の基本
- ▶ 聞く力を伸ばすためには
- ▶ 受動的な行動ではなくて、アクティブな行為である。
- ▶ 音声学
- ▶ 日本人が苦手とする音声



4つの技能、 5つの領域

- ▶ 「5つの領域」（「聞くこと」「読むこと」「話すこと [やり取り]」「話すこと [発表]」及び「書くこと」）の指導及び各領域の内容について説明できる。
- ▶ 「聞くこと」 listening
- ▶ 「読むこと」 reading
- ▶ 「話すこと [やり取り]」 speaking: interactive communication
- ▶ 「話すこと [発表]」 speaking: presentation
- ▶ 「書くこと」 writing
- ▶ この中で、聞くことはもっとも基本であり、初期の段階で行う必要がある。



英語の能力とは

▶ **英語の能力とは伝統的に次の4つが示される。**

1. **リーディング（読解）能力**：文章を理解し、情報を取り入れる能力。文法や語彙の知識、コンテキストを理解するスキルが含まれる。
2. **リスニング（聴解）能力**：聞いた言葉や音声を理解し、情報を把握する能力。アクセントや速さに対応できることが重要である。
3. **スピーキング（会話）能力**：自分の意思や考えを適切に表現し、相手と効果的にコミュニケーションをとる能力。発音や表現力が影響する。スピーキング能力は指導する上では、発表(Public Speaking)と会話(interactive)の2つに分ける方が好都合である。
4. **ライティング（文章表現）能力**：文章を書く能力。文法や語彙の正確性、論理的な構造、表現力が求められる。



生徒の聞く力を伸ばすために

- ▶ **多読と多聴：**
- ▶ 生徒に英語のリスニング力を伸ばすために、多読（多くの文章を読むこと）と多聴（多くの音声を聞くこと）を取り入れること。
- ▶ 様々な難易度やテーマの英語の音声やビデオを提供することで、異なるアクセントやスピードに慣れさせることができる。
- ▶ **リアルなシチュエーションの模擬：**
- ▶ 日常生活の中でのリアルなシチュエーションを模擬し、その中で英語を聞く練習を行います。例えば、インタビューやディスカッション、ストーリーテリングなどのアクティビティを通じてリアルな英語の使用を体験させることが重要です。
- ▶ シャードウイングとディクテーション



ディクテーションとシャドーイング

- ▶ ディクテーションとは
- ▶ ディクテーション (Dictation) は、聞いた英語を一語一句書き取るトレーニングである。当然のことながら1回ですべてを書き取ることはできないため、同じ音声を何度か聞くことになる。
- ▶ ディクテーションには、「穴埋め」と「全文書き取り」の2種類がある。
- ▶ シャドーイング (Shadowing) は、英語を聞きながらそれを真似して発音する通訳訓練法のことである。英文を聞き終えてから繰り返す「リピート」とは異なり、シャドーイングは、聞こえてくる英文のすぐ後ろを影 (shadow) のように追いかける。



アクティブリスニング

- ▶ **アクティブリスニング**：生徒には受動的に聞くだけでなく、アクティブにリスニングするスキルを養うことも大切である。
- ▶ 質問を立てさせる、要約させる、特定の情報を見つけさせるなどの方法を使って、意識的に生徒のリスニングスキルを向上させる必要がある。
- ▶ **ディクテーション**：リスニングと同時にスペルや文法の理解も重要である。ディクテーションの活動を通じて、正確な聞き取りと同時にスペルや文法の確認ができる。
- ▶ 受動的な活動ではなくて、自分から聞くことを進めていく。



レベルにあわせた素材

- ▶ **バラエティ豊かな素材の使用**：ニュース、映画、ポッドキャスト、音楽など、様々な種類の素材を取り入れて生徒に選択肢を提供すること。これにより興味を引き、異なるスタイルの英語に触れさせることができるようになる。
- ▶ **レベルに合わせた素材**：生徒のレベルに合わせた難易度の素材を用意することが大切である。難しすぎると挫折感が生じる可能性がある、逆に易しすぎると効果が薄い。Krashenの仮説にある適切なインプットを心がける必要がある。
- ▶ **i+ 1 (interlanguage plus one)** : mother talk, teacher talk
- ▶ **フィードバックと繰り返し**：リスニングの活動に対してフィードバックを提供し、生徒がどの部分で問題を抱えているかを理解できる。繰り返しの練習を通じて、徐々に向上していくことが期待できる。



音声学とは

- ▶ 音声学は、言語学の一分野であり、言語における音の発生や伝播、受容に関する法則や原則を研究する学問領域である。音声学者は、言語の発音における音の性質や特徴、発音器官の動作、音の周波数や強度などを分析し、言語音の系統的なパターンや変化を把握することを目指す。
- ▶ 音声学は、異なる言語間での音の違いや類似性を比較し、これによって言語の系統や変遷を解明する上で役立つ。また、発音の正確な記述や指導、音声障害の研究など、実用的な応用も持っている。
- ▶ さらに、近年では音声認識技術や合成音声技術など、情報技術との結びつきも強まっており、音声学の知見は言語処理やコンピューターとの対話システムの開発にも活用されている。



英語の標準的な発音

- ▶ イギリス英語 (Received Pronunciation)
- ▶ アメリカ英語 (North American English, General American)
- ▶ World Englishes
- ▶ 特定の基準が必要である。
- ▶ 理解可能性(intelligibility)
- ▶ 各地での特有の特徴を残しながら、他の変種話者と「理解度の高い」英語力を身に付けることは可能である。



国際音声記号

- ▶ 国際音声記号は、言語学や音声学の分野で使用される、言語音を記述するための記号体系である。
- ▶ 略してIPA（International Phonetic Alphabet）とも呼ばれている。
- ▶ 国際音声記号は、言語の発音を正確に表現するための標準的な手段として国際的に広く受け入れられており、言語の音声的な特徴を詳細かつ一貫して表現することができる。
- ▶ これにより、言語学者や言語教育者が異なる言語の音声を比較・研究する際に便利であり、正確な発音の指導にも使用されている。



母音と子音の違い

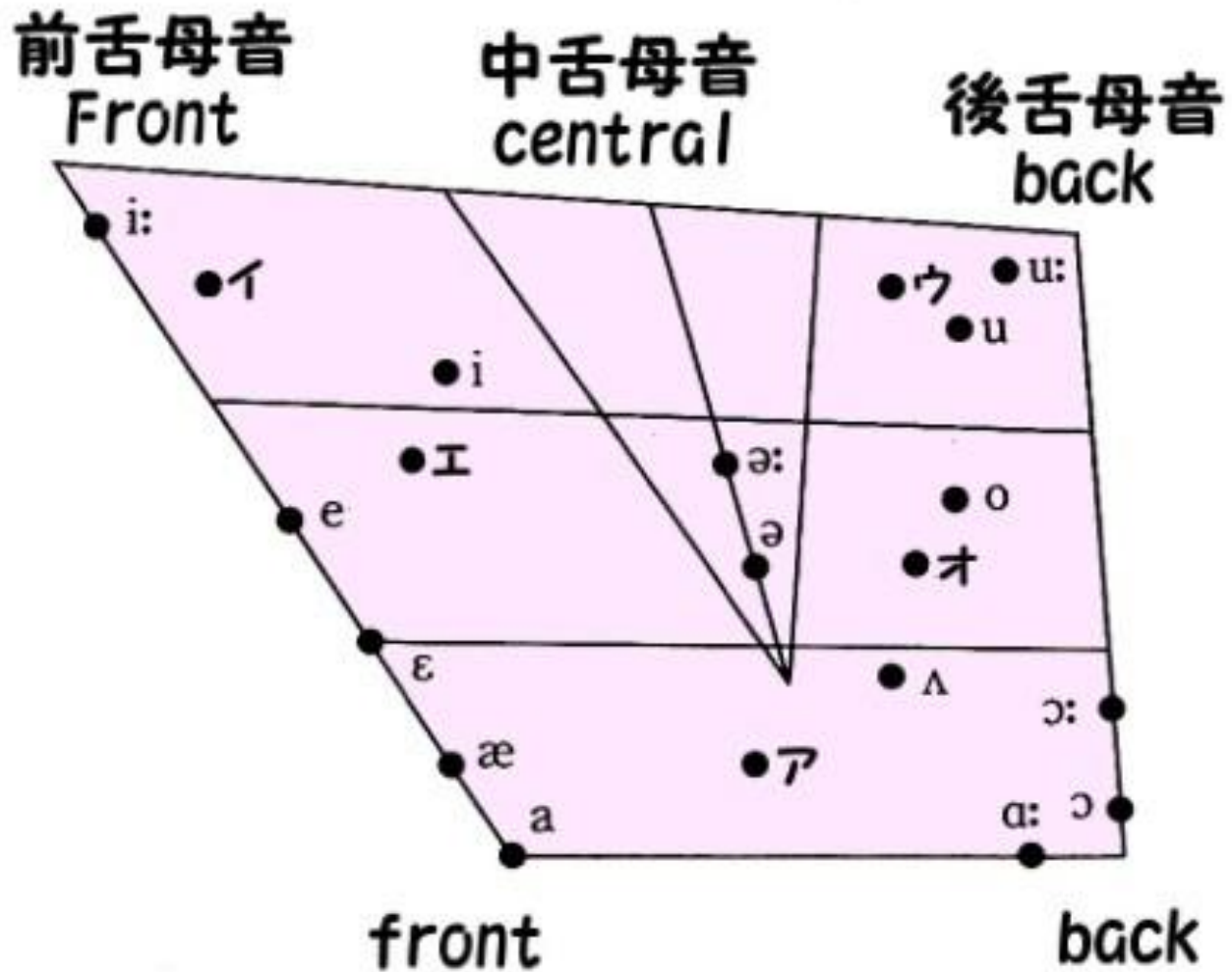
- ▶ 母音と子音の違いは、音声学的な観点から言えば、口や喉などの発音器官がどのように配置されるかにある。
- ▶ 母音は、発音器官がほとんど閉じずに音が出る音であり、一般的には声門が開いている状態です。これに対して、子音は発音器官が一時的に閉じられるか、狭まることで音が出るものであり、具体的な発音器官の動きによってさまざまな種類の子音が形成される。
- ▶ 母音と子音は、言語の音韻体系において重要な区別をなしている。
- ▶ 言語ごとに異なる母音と子音の組み合わせが存在し、これがその言語の発音の特徴や音韻パターンを形成している。



英語の母音の数

- ▶ 日本語は5つ母音がある。
- ▶ 英語の母音はいくつあるのか？
- ▶ 短母音は12個ある。日本語の5つの母音を12個に区切って覚える必要がある。
- ▶ 英語には二重母音がある。それは、8つある。
- ▶ 英語の母音は両方を加算して20個と考えられる。
- ▶ 英語には三重母音がある。fire power などである。そうになると30個の母音を覚えることになる。
- ▶ 英語は18の母音からなると述べる学者 Wells, C.J. (1990) *Longman Pronunciation Dictionary*, Longman
- ▶ 英語は22の母音からなると述べる学者 Hewings, M.(2004) *Pronunciation Practice Activities*, Cambridge
- ▶ 竹内真生子は、母音はアメリカ英語で37個あると述べる。『日本人のための英語発音完全教本』アスク出版





日本語と英語の母音図



日本人に苦手が音

- ▶ 英語の中で、日本人には苦手な音は、特に「r」や「l」といった音の区別が挙げられる。これは、日本語には「r」と「l」の違いがないため、聞き分けや発音が難しいと感じられる。
- ▶ これを克服するためには、まずは発音器官の動きを意識的に変えることが重要である。具体的には、舌の位置や口の形を調整することで、「r」や「l」の発音が改善されることがある。また、発音の練習として、リスニングや模倣を通じて正確な発音を身につけることも有益である。
- ▶ 小学校、中学校、高等学校の段階での音声の指導はそれぞれに適切な音の出し方を習得する必要がある。高等学校段階では、ある程度は、音声学的な知識は役立つが、小学生段階では不要である。小学生段階では、いわゆる生の音を聞かせて体感的に習得してもらう方がいい。



課題

- ▶ いわゆる 4 技能(5 領域) の中で最も基本的な技能を説明せよ。
- ▶ Dictation の力を付ける方法を説明せよ。
- ▶ 能動的にリスニングするとは何か。

